

を深めようと、飼育指導や実際に動物を用いてふれあい体験教室などを行った。その結果、少しずつではあるが、『命の大切さ』『動物飼育の意義』を理解してもらえたと思う。

しかし、学校訪問を行う事も大切であるが、児童を指導する立場の教職員の方々に、正しい知識を持ってもらい、また経験してもらうことが必要との県教育委員会からの要望で、今回、県内全小学校を対象にした、教職員研修会を開催した。

県内8教育事務所と県獣医師会9支部が連携し、各1~2回、計15回の研修を実施。各研修、20名~40名、計427名の担当の教職員が参加された。

また、研修は、学校の夏季休業期間に当たる、7月下旬から8月下旬にかけて、行った。内容は、「講義1時間」「実習1時間」で行われ、テキスト、スライドは、獣医師会学校飼育動物部会で準備し、担当支部ごとに検討し当日使用した。

研修会の内容は、I講義として、「子供を育てる学校動物」というテキストを配布し、ニワトリ、ウサギ、セキセイインコ、ハムスター、モルモットについて、スライドを使って、分類、品種、形態、生理、飼い方、エサ、繁殖、病気、特有のクセ等を説明した。スライドは専門的なデータよりも、具体的な事例や写真などが、好評だった。講義も現状で飼育されている動物なので、品種や歴史の説明よりも飼育上の注意点や雌雄の見分け方といった、実践的な話に関心が集まるようである。約1時間の内に、全てを説明しようとする、かなり忙しく散漫な印象になってしまうので、具体例や禁止事項を強調すると、最後まで興味を持って参加してもらえたようだ。(病気の見分け方などは、担当の先生方も苦労されているところらしく、質問も多い。)

続いてのII実習では、ウサギを使って、体験実習を行った。

具体的な飼育の仕方や雌雄鑑別法、抱き方、聴診器を使ってウサギの心音を聴く等を、行った。(人間の心音と比較してみたところもあったようである。)質疑応答は、各研修それぞれだったが、やはり、実際に動物と接しているので、この時間帯に、盛んに質疑応答が行われたようである。雌雄鑑別は、ポイントとして、説明した。

ほとんどの獣医師が、先生方の反応が、ふれあい教室の時の子供達と同じ様だったと感じ、驚いた。

飼育指導担当になっても、抱き方を知らなかったり、抱いた事がない先生もいたが、自分自身で、しっかりと動物を抱くことによって、驚きと好奇心を感じた事は、今後の飼育指導にとっても有意義であったと思われる。研修に対する、個々の個人差はあったが、獣医師による実習で、知らなかったり、分からなかった事を、少しでも減らして、飼育指導に役立ててもらえれば、と思う。

只、本当に暑い中での研修だったため、「時期的

に何故？」といった意見もみられた。

◇担当教職員からの質問及び意見◇

まず、質問で多かったのは

- ①雌雄鑑別法
- ②病気の見分け方
- ③エサ等の世話の仕方
- ④飼育舎の設備
- ⑤何かの時の相談方法
- ⑥感染症(鳥インフルエンザ)

⑥については、後で述べるが、これらの質問から、不慣れな状況の中で学校飼育が行われている実態が感じられる。病気等は獣医師でないとなかなか難しい場合が多いと思ったが、その他日常的な問題は、先生の指導のもと行われているので、今回の研修が参考になれば、と思った。

②、⑤の場合も、各地域の獣医師と連絡がとりやすい状態にあれば、飼育指導をして行く上で、心強いと思われるので、今回、地区ごとに分かれた形の研修方法も良かったのではないかと思われた。

◇担当教職員からの感想◇

質問と重なるものもありますが、

- ①雌雄鑑別法が分かって良かった。
- ②飼育方法を詳しく聞けて良かった。
- ③ウサギの特性を理解できた。
- ④子供が動物好きな理由が分かったように思う。
- ⑤抱いてみると、ウサギはかわいいと思った。

④や⑤は、これらなくしては、子供たちへの熱心な飼育指導に、結びつかないので、研修の意義があったと思われる。

①、②、③のように、研修で学んだ事を、すぐに学校で実践したいという方も多く、この活動を今後も続けて欲しいという声も、多く寄せられた。

一方、仕方のない事ですが、担当教職員の熱意に、温度差が見られたのも事実である。服装等の問題から、ウサギに触る事が難しいケースもあった。「実習があるので、ある程度の用意を」というような連絡も必要かと思われる。今回は、初めての試みだったので、理解が行き届いていない部分もあると思うが、今後継続して行く中で、より効果のある研修ができると思う。

鳥インフルエンザについて

動物からの感染症に対する安全性についても、高い関心が寄せられた。昨年の鳥インフルエンザの事例以降、飼育を児童にさせないようにした学校もある。風評に振り回されていると感じた獣医師もいた。飼育の現場からは、安全宣言のような発表が欲しいという意見も出た。今なお、東南アジアでは発生している状況を考えると、不安軽減のためにも飼育環境、消毒法、接触の仕方を、きちんと伝える必要性を感じる。

学校という環境を考えると、難しい問題だと思うが、危険性の回避のみを考えた指導が、正しいとは

思えない。衛生に注意した飼育を行えば、動物だけでなく、人間にとっても安全確保に繋がるので、きちんとした指導が必要となる。

◇獣医師からの感想◇

- ①担当の方たちが、飼育に不安を感じていたのが、よく分かった。
- ②正しい知識はとても大切。
- ③教職員の反応が、子供の様子と同じで驚いた。
- ④事前に質問を集めておいた方が効率的。

その他、講義の内容に関する改善点などが出された。

①～③を見ても分かるように、獣医師側からも今回の研修の必要性が、上がった。

④については、獣医師側の為だけでなく、事前に学校側でも飼育について考え、場合によっては、校内

で相談してから参加してもらえれば、研修はさらに効果的なものになると思う。

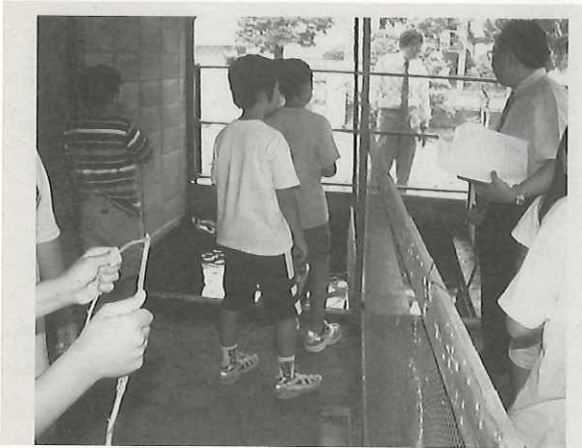
只、今回の研修自体はとても有意義のものと思われるが、受け側に取り組む意欲がないと、無駄になってしまう。また、得た知識を今後、どう生かしていけるか、が大切なことだと思う。大多数の担当の方たちからは好評で、熱心に研修していただけたと思った。

また、一部からは、(学校担当獣医師)の希望も出された。予算や獣医師側の事情を考えると、難しい点もあるが、検討していけたら、と思った。

以上で報告は終わりますが、今後も講義や実習の内容を検討し、充実させて、この研修を継続していけたらと考える。

(社団法人栃木県獣医師会)

<パネル展示掲載写真・図>



獣医師の訪問指導を受けて良かったと思いますか？

